

知的障害学級（すいせん学級）

生活単元学習 学習指導案

日時 令和5年9月22日（木）3・4校時
場所 真龍中学校 1階調理室
生徒 1年2名、2年1名、3年1名 計4名
指導者 笠原 敬子（T1）
高橋 亜季（T2・支援員）

1. 単元名 「おにぎりをつくってみよう」

2. 単元の目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
出来事や経験したことを伝えあう体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れることができる。	相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。	オリジナルおにぎりを考案し、自分の力でおにぎりを作ろうとする態度を養う。

3. 単元設定の理由

(1) 生徒の実態

本学級の生徒はこれまでの生活単元学習の中で、季節の飾りづくりや公共のマナー、買い物の仕方などの学習を行っている。それぞれの単元では、国語や数学、社会、理科、美術、技術・家庭などの教科を合わせて指導してきた。調理に関しては昨年度、現2・3年生が自分たちで育てた野菜を使い、意欲的に調理に取り組むことができたと聞いている。しかし、今年度の1年生を含め、調理の段階で自分なりの工夫ができるように、形や材料、盛り付け方を考え、お互いの考えを聞き合い、「確かめ」「質問」「感想」を述べることの定着はまだなされていない。

本単元に際しては、楽しい雰囲気の中で聞き合い活動ができるよう、子どもたちの興味・関心の高い調理活動（おにぎりづくり）を設定した。11月には「おいしいピザを作ろう」に取り組み、自分たちで考案したピザを作り、友だちや教員、保護者に振る舞う予定である。少しでも調理に対して自信を持った状態でピザ作りに取り組みせたいため、生徒が好きな「おにぎり」を題材にし、調理活動の導入としていく。

(2) 単元観

本単元では調理活動を行うに当たり、生徒が自立し社会参加するためにこれまでに学んだ知識を生かして、自ら主体的に活動できるようにすることが必要であると考え。

具体的には以下のとおりである。

【国語の力を生かして】

- ・レシピを読み、おにぎりづくりの手順や内容を理解する。
- ・調理の工程でわからないことを先生や友達に尋ねる。
- ・写真や動画をもとにしておにぎりづくりを振り返り、自分の感想や次回への意気込みを書く。

【数学（算数）の力を生かして】

- ・おにぎりの個数に合わせて、ボウルの中のご飯を等分する。
- ・おにぎりの形や大きさを整える（三角形・丸形・俵型）
- ・茶碗の大きさをもとに、おにぎりを包むための必要なラップの長さを測り取る。
- ・ご飯を円に見立て、ご飯の中心に具を入れる。
- ・必要な米を量り、米の量に合わせて水も量り入れる。

本単元では、それぞれの興味関心から友達への質問を考え、わかりやすく丁寧な言葉で伝え、質問に対する答えを聞き、場合によってはタブレット端末を使ってメモを残す。質問されたことについて理解が難しい友達に対しては、言葉を補うなど、自分の伝えたいことを伝えようとする粘り強い姿勢を育てたい。

また、上手く聞き合い活動進められた時の達成感や楽しさをお互いが感じ、聞くことを中心に据えた交流活動に積極的になれる単元であると考え。

(3) 指導観

本単元の指導にあたって、まず、絵本「ちびころおにぎり なかみはなあに」を読み聞かせ、おにぎりに対して更なる興味をもたせる。そして、おにぎりのレシピを見せ、おにぎりにはいろいろな形や種類があることを発見させ、今後は自分で考えたおにぎりを作ってみようと提案をする。おにぎりのよさについてお互いの考えを「聞き合い」、「おいしいおにぎりを作るために大切なことは何だろう」と考えることを学習課題としていく。

4. 指導と評価の計画（全10時間）

- (1) 単元の流れをつかむ（2時間）※絵本読み聞かせ、おいしいおにぎりを作るためには？
- (2) どんなおにぎりを作るか考える。（2時間）※レシピ調べ、食べてもらいたい人にインタビュー
- (3) 作りたいおにぎりのレシピを作り、試しのおにぎりを作る。（4時間）※必要な道具、材料、手順を知る。
- (4) おにぎりをおいしくつくろう（4時間）←本時

5. 本時について

(1) 町研研究主題との関連

**【研究主題】地域・社会に生きてはたらく力を育む厚岸町の教育
～育成を目指す資質・能力を明確にした授業改善～**

【特別支援教育部会 研究テーマ】
「児童生徒個々の教育的ニーズに応じた支援の在り方や学校間交流及び共同学習の推進についての研究」

(2) 本時の目標

- ・友だちと考えを聞き合い、お互いのおにぎりの良さやアドバイスを伝えあうことができる。
- ・友だちからのアドバイスを素直に受け止めることができる。

【本時でねらいとする資質・能力について】			
生徒	本単元に関わる実態	個人の目標（本時）	目標達成のために考えられる手立て
A 1年 男子	家庭での調理経験はほぼなし。手先は不器用。	・手順表の見方が分かり、見通しを持って自分で活動できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の工程を教師が実演する。 ・段階を追って支援を減らし、生徒が一人でできる活動を増やす。 ・必要に応じて声かけしたり、生徒の質問に答えたりする。 ・生徒が一人で上手にできたときには、褒めて意欲を高める。 ・生徒個人用の手順表を準備する。 ・一人で調理をやり遂げる
B 1年 男子	家庭での調理経験はほぼなし。不器用な部分があるが、細かな作業を好む。	・手順表をもとに、一つ一つの作業を丁寧に行うことができる。	
C 2年 女子	夏季休業中に自宅でおにぎりを作った様子。それ以外は特に調理に関わることはない。細かな作業に対してゆっくりと丁寧に取り組む。	・準備や片付けに見通しを持ち、進んで作業することができる。	

D 3年 女子	調理が好きで、自宅では食 事の支度をするこもあ る。手先は器用。	・手順表を見て、見通しを持 って活動を進めることがで きる。	ため、生徒一人に1つの調 理台を確保。 ・作業しやすい調理器具の 配置 ・長さや重さを計測する際 のガイドを設ける。
---------------	--	--------------------------------------	---

(3) 展開 (7～8 / 10時)

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	生徒に応じた具体的な指導			
		A (1年男子)	B (1年男子)	C (2年女子)	D (3年女子)
導 入 (1 0)	1. 前時までの学習を振り返る。	・ロイロノートにある資料(単元の流れ)を見て、これまで学習してきたことを確認することで、本時の学習内容を把握させる。			
	2. 学習計画を確認する。	・おにぎりを作る活動への期待をもたせることで、おにぎりのつくり方を確認し、作りたいという意欲を高めることができるようにする。			
	3. 本時のめあてを確認する。	・活動の流れを提示し、2時間の学習の見通しがもてるようにする。			
	(1) めあてを読む。 (2) めあてをワークシートに書く。	・正しく書くことができたら称賛し、意欲を高めて学習に取り組むことができるようにする。	・正しく丁寧に書くように言葉掛けをし、できたら称賛する。	・書ける漢字は書いたり、丁寧に書いたりするように言葉掛けをし、できたら称賛する。	・いつも丁寧に字を書いていることを称賛し、自信をもたせる。
展 開 (8 0)	4. 調理をする。(30分) (1) 本時の直前の生活単元学習の冒頭で研いで浸水させた米を炊飯する。 ・火加減と時間を確認しながら、鍋を観察。 ①中火にかけ、沸騰が確認出来たら中火のまま2分炊く。 ②少し火を弱め3分、続けて一番弱い火力に落としてさらに5～7分炊く。(合計10～12分目安) ③蓋を少し開け、水分が残っていなければ炊き上がり。 ④蓋をして、鍋を中火に5～10秒かけて加熱する(蓋を開けて鍋内の温度が下がっているため)。 ⑤火を止め、蓋をしたまま10分間蒸らす。	・火加減を確認しながら、鍋を観察し、火力を調整する。			
	(2) おにぎりをつくる。(20分) ①おにぎりのつくり方を確認するために写真を並べる。	・聴覚的な記憶よりも視覚的な記憶が得意な生徒が多いため、炊飯の手順が一目でわかりやすい写真や動画をロイロノートに取り込み、生徒がいつでも確認できるようにする。 ・安全面を考え、子どもが興味関心を持って取り組めるような半具体物を準備し、模擬練習を行い、意欲的に取り組めるようにする。			
		・つくり方の各活動の写真を準備し、操作活動を行いながら完成させることができるようにすることで、活動を楽しみながら授業に集中することができるようにする。			

	②おにぎりのつくり方の動画を見て、作り方を確認する。	・写真を提示する際は、短い言葉による説明を加えることで、何の写真なのか理解できるようにする。		・自分で並べた写真と、正しい順番に並べて掲示された写真を一つずつ確認できるようにする。	
	③正しい順番を全員で確認する。				
	④正しい順番に並べて写真をホワイトボードに掲示する。併せて、各自に手順表を配付する。				
	⑤実際におにぎりをつくる。 ※小さめのおにぎりを複数個つくり、後程食べ比べを行う。 ※握る際はラップを使用する。	・支援員に様子を見てもらい、本人が助けを求めたら言葉掛けなどを行う。	・手順表を見ながら、丁寧に作業を進めていたら称賛する。	・手順表を見ながら見通しを持ち、意欲的に作業に取り組めるよう言葉掛けを行う。	・全体を見て、作業の進行状況を確認することができるように、言葉掛けを行う。
5. 試食する。(10分)	・自分のものだけではなく、他の人が作ったおにぎりの感想も伝えることができる。				
6. 調理器具等の片づけをする。(20分)	・丁寧に道具や食器を洗い、拭き上げることができるように言葉掛けをする。		・手順表を見ながら、今何をすべきなのかを考え、行動できたら称賛し、自信へとつなげる。		
終末 (10)	7. 本時の学習を振り返る。	・できたことに対してごほうびシールをあげるだけでなく、できるようになったことが分かり、達成感を味わうことができるようにする。			
	(1)感想カードに記入 (2)発表	・発表の前に個別指導し、発表する内容を決めることができるようにする。	・発表する順番を事前に伝えることで、見通しを持って発表することができる。	・できたことを具体的に称賛することで、自分のできるようになったことを確認できるようにする。	
	8. 次時の学習について伝える。	・単元の流れを確認し、次時で学習することが分かるようにする。			